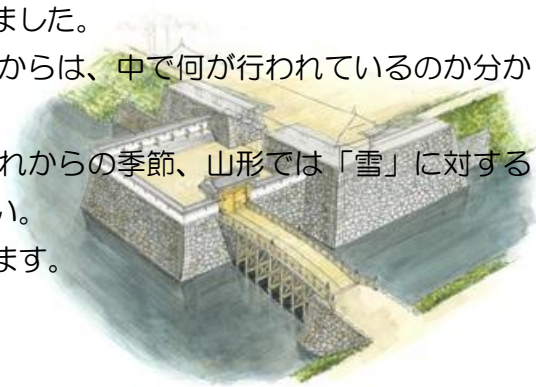


秋も深まり、霞城公園の木々も落葉し、冬の足音が近づいてきました。

現在、枅形土塀復原工事の現場は、足場とシートに覆われ、外からは、中で何が行われているのか分からない状況です。

せっかくご来園頂いた方には、大変申し訳なく思いますが、これからの季節、山形では「雪」に対する対策は必要不可欠。どうぞ、来春まで、今しばらくお待ちください。

それでは、今回も、枅形復原工事の作業状況をレポートいたします。



1 軸組及び屋根野地板張り



土塀の骨格となる軸組が進み、屋根には下地となる野地板張りが施されました。

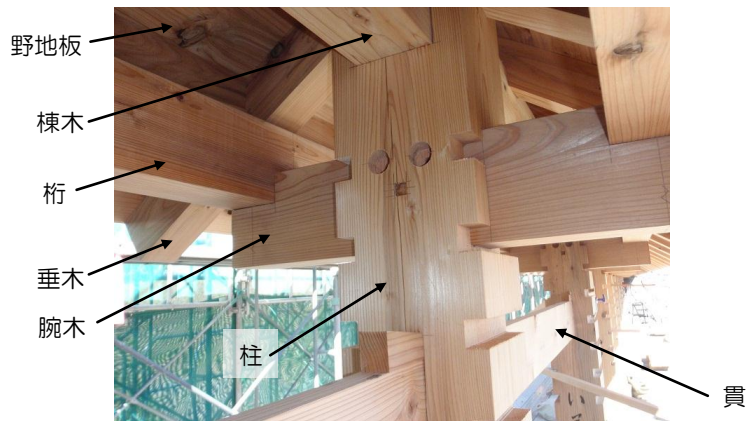
これで、土塀全体の規模や形状が見えてきました。

2 仮押さえ



土塀を裏側から支える「控え柱」をまだ建てていないため、仮に斜めの控えをとっています。

3 軸組の上部



柱には様々な加工が施され、腕木、棟木及び貫が通っています。

腕木の上に桁が載り、その桁と棟木で垂木を支えています。そして、その上に屋根の下地として、野地板張りを施します。

4 継手



軸組は、様々な継手を用いて組み立てられています。

写真は、土台をつなぐ「腰掛けかま継ぎ」です。

5 控え柱礎石



控え柱の礎石には、ずれ防止のため、基礎コンクリートに緊結されたアンカーボルトを立ち上げます。

控え柱は、このアンカーボルトを通して礎石の上に建てます。

6 足場屋根シート養生



ここから、屋根工事と左官工事に入ります。雨や雪の影響を受けないように、全面シートで覆います。

7 土居葺き



野地板の上に、瓦葺きの下地となる杉皮板を葺いているところです。

これを土居葺き^{どいぶき}と言い、防水の目的があります。

8 控え柱



控え柱が礎石^{そせき}の上に建てられ、柱に取り付けられた状況です。

この控え柱は、見え掛^{みが}かり（部材そのものが表面に現れて見える部分）となるため、汚れや傷を防止するために、しっかりと養生されています。

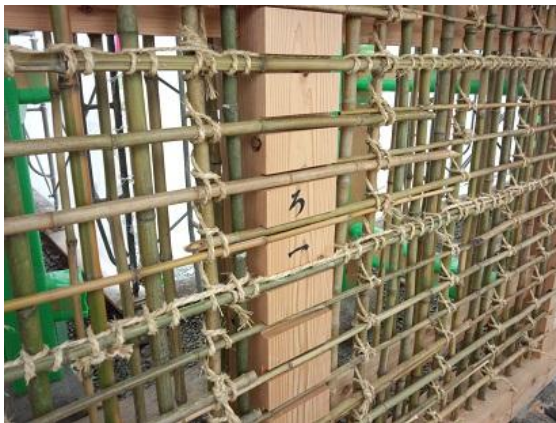
9 小舞下地



竹を縦横に組み、壁の下地を造ります。

これを「小舞^{こまい}」といいます。

10 横竹の固定



小舞の横竹は、柱に刻んだ横溝に組み込まれています。

ずれ落ち防止の対策です。

11 縦竹の固定



小舞の縦竹も、土台に開けられた穴に、固定されます。